



新選憲法秘録

甲

ワ 3
3348
9



門ノ保 3
雜 3.348
卷 9

新選憲法秘錄申

六衛道之論

氏遺愛之記

德祥閣
圖書印

- 一 御東市之知事以是為部白得之部
- 二 御東市其外以國權以是為部白得之部
- 三 御東市其外以國權以是為部白得之部
- 四 御東市其外以國權以是為部白得之部
- 五 御東市其外以國權以是為部白得之部
- 六 御東市其外以國權以是為部白得之部
- 一 高札也
- 一 御代官諸入用請之方也



新選憲法秘錄

予新道篇

○ 御前書外、新選憲法之旨、又及之、故、者、部、

一 御前書、其、中、之、旨、乃、極、密、門、外、之、旨、也、而、御、前、書、事、

文政、己、年、九、月、御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

予、道、中、奉、御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

日光、御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

御、前、書、事、於、己、年、松、平、河、原、書、事、

右通河海島台皇應之同合諸子也一此方中駕
馬駕以列之是左列有之也若方中駕馬駕
之方中一此方駕之上與山產在在以此方中
駕之形也此物馬駕之也一此方同合

右後序

指家親王門臨方以在方中一此方中駕
之方中一此方中駕之形也此物馬駕之也
一此方中駕之形也此物馬駕之也一此方中
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也
此物馬駕之也一此方中駕之形也此物馬
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也

一傳 奏元之此方中駕之形也此物馬
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也
此物馬駕之也一此方中駕之形也此物馬
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也
此物馬駕之也一此方中駕之形也此物馬
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也
此物馬駕之也一此方中駕之形也此物馬
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也
此物馬駕之也一此方中駕之形也此物馬
駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也

右後序

信駕之形也此物馬駕之也一此方中駕之形也

行ハ警難ニシテ列駕御供ニ至リテ乃公

一御奉直トモ同列ト爲ル事始末ヲ乘述シハ奉直ハ列駕御
列駕御奉直御供ニ至リテ乃公トモ同列ト爲ル事始末ヲ乘述シハ奉直ハ列駕御
列駕御奉直御供ニ至リテ乃公トモ同列ト爲ル事始末ヲ乘述シハ奉直ハ列駕御

右通河内守トモ同公滿トモ中トモ同駕御供ニ至リ
同河内守トモ同公滿トモ中トモ同駕御供ニ至リ

右接接

前条接接トモ同公

一平社 河内守トモ有東西河内守平社ト云一切御供
河内守トモ有東西河内守平社ト云一切御供

但列駕御供ニ至リテ乃公同列ト爲ル事

其行ハ警難ニシテ列駕御供ニ至リテ乃公同列ト爲ル事
同河内守トモ同公滿トモ中トモ同駕御供ニ至リ
同河内守トモ同公滿トモ中トモ同駕御供ニ至リ

右通河内守トモ同公滿トモ中トモ同駕御供ニ至リ
同河内守トモ同公滿トモ中トモ同駕御供ニ至リ

但日次

一書田河内守御供ニ至リ

一新刊代小蔵代も同様

但恐るる鳥市宗本為種最良之者多分得し者未だ鳥市中
産想難入者あり故に産後亦多分ありしかども
亦多分中(中)事

右之通可成るるを産後之同合所より若而若く前之
言々方産後之同合

右接接

其多産後表之新産之者より若く若くは

一産後入方接接亦之有接接合分中一切あり接接

事

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

右接接

御前古持美しき事

御前古持美しき事

今方之産後之者より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

一産上より若く若くは同合より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

右之通可成るるを産後之同合より若く若くは同合

此處之小島下等... 今是也

一 臨也... 今是也... 中下島... 此處之小島

右接接

張名... 達中... 此處之小島... 右接接... 此處之小島

李和元... 此處之小島

一 於... 此處之小島... 此處之小島

文政... 此處之小島

此處之小島... 此處之小島... 此處之小島... 此處之小島

有... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...

右接好

延喜... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...

右列解

一... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...
延喜... 延喜... 延喜... 延喜...

延喜... 延喜... 延喜... 延喜...

多者有平休以... 西以... 致中

右後段

此言... 連七... 街... 其... 亦... 是又...

一... 山馬... 上... 重... 流...

右後段

此言... 門... 有... 亦... 一... 但... 治...

右後段

阿波守 侍向、御、山、御、陣、氣、山、家、子、海、以、有、
前、以、子、侍、向、多、ハ、不、設、定、初、以、氣、建、新、山、園、此、ハ、為、
可、且、張、出、御、向、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、
山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、
山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

右、通、同、合、山、同、年、月、尾、張、殿、 紀、伊、殿

山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、
山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

紀、伊、殿、山、御、山、御

一、諸、事、中、務、以、通、以、之、事、合、山、御、山、御、山、御、
山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

石、山、御、山、御

山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

一、御、慶、御、 山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

石、山、御、山、御

山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

又、ハ、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、
山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

一、諸、事、御、向、前、紀、伊、殿、通、以、之、事、合、山、御、山、御、
山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、山、御、

但所感物亦有形如との体向局丸幕未と語后も同様
句得る事

右管下丸

市考但書有言句々々言及る其月通好
市諸家分体向以幕建並の管丸を以て言及る
有引の事

但諸家以局を以て小体と云ふは幕の小体也
管丸有引の事

一 小器者小口或は後前及後日種々形張者不変り在り

車人
右管下丸

張者言及る所出言及る所 此中陣眼也
止る所及る所 此中幕次言及る所也

一 小器張者通好 諸家向人々々言及る所 信求其言
事以爲一 張通好也

右管下丸

張館幕市門同也 幕中何 幕中何
所居代所使 言及る所 幕中何 幕中何
不有張也

尾張殿中藏附上藏合

一 諸家張中 此通好 幕合上幕別 信求其言 幕合何信求
大言事

右書下之礼

江表之移命古改叙之也

一 御禮物 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

右書下之礼

御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

又ハ其後之者アハ其書有右左不ハ其書
命ナリ 持入之 後之 勿為撰之 候ナ 御書下 御書下

事

一 諸家信向之 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下
番人ナリ 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下
御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

右書下之礼

御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下
御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下
御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

一 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下
御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下 御書下

右書下之礼

旅籠日成三日の清原止宿と申す所は平原
右陣止宿の後を南に下りて右の御新次宿に
申す

一 旅籠前通の徳家南入と申すは
下馬の宿に下りて通の宿に下りて

右宮下札

旅籠前通の宿に下りて
御新次宿に下りて
御新次宿に下りて
御新次宿に下りて

仁尾旅籠前通の宿に下りて
徳家南入の宿に下りて

一 御新次宿の宿に下りて

文政九年九月相馬長門守同右

長門守の宿に下りて
徳家南入の宿に下りて

大名
一 御新次宿
御新次宿

御新次宿の宿に下りて
徳家南入の宿に下りて

右の宿に下りて
徳家南入の宿に下りて
徳家南入の宿に下りて
徳家南入の宿に下りて

若通使之度より駕を移して居るに長くお侍り候

一右通 之は長治藤原よりある御侍且少勢あるは御

侍より御見下事より候馬よりある御通例より候

通より候若くは右通より候より候より候より候

若くは通より候より候より候より候より候

右より候より候より候より候より候

一右より候より候より候より候より候

徒士以下等々者
五百餘所人

右より候より候より候より候より候

侍之儀

但下馬より候より候より候より候

一徒士以上長幼家祿人山御座候

石段所人

右より候より候より候より候より候

但下馬より候より候より候より候

車之儀

一通申節法要秘傳より候より候より候

以り下馬より候より候より候より候

附於御前其儀より候より候より候

唯一古白傳より候

一 御用物より名法は手割に... 馬... 白得... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

附... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

一 同... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

場... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

一 徒士... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

以... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

一 徒士... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

但... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

一 徒士... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

一 徒士... 御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

御用物より名法は手割に... 馬... 白得...

此等則既極... 中... 一... 山... 故...

一... 者... 故... 山... 故...

一... 山... 故... 山... 故...

一... 用... 故... 山... 故...

一... 故... 山... 故... 山... 故...

右後撰

万石... 山... 故... 山... 故...

山... 故... 山... 故... 山... 故...

山... 故... 山... 故... 山... 故...

山... 故... 山... 故... 山... 故...

三

一... 山... 故... 山... 故... 山... 故...

方々倭の山中より色々ありて山道に
行きて人々此道に歩きてありて
津國の道に色々ありて又歩きて
少休ありて歩きて色々ありて
追越ありて歩きて色々ありて
人々ありて歩きて色々ありて
色々ありて歩きて色々ありて
色々ありて歩きて色々ありて

一

御道具類大書院に於て事

文政六年四月山王院書院合

一 皇儀書院の通申大書院に於て事

古くは倭の通申大書院に於て事

但右の書院に於て事
諸の皇儀書院に於て事
色々ありて歩きて色々ありて

右後抄

皇儀書院に於て事
色々ありて歩きて色々ありて

一 御道具類大書院に於て事
色々ありて歩きて色々ありて

斗言の意を以てありあり

但家の中は強引に帝も右同様と包済の意は
且能士は強引も右同様と包済の意は

右様様

家来への強引存の程も者への強引存の程も
ありありと強引の右同様と包済の意は

一同の意は強引の帝の中右同様と包済の意は
包済の意は強引の帝の中右同様と包済の意は

他人の意は強引の右同様と包済の意は

右様様

中右同様と包済の意は強引の帝の中右同様と包済の意は

人は右同様と包済の意は

一 大西番の意は強引の帝の中右同様と包済の意は
又ハ内蔵の意は強引の帝の中右同様と包済の意は
之は強引の帝の中右同様と包済の意は

右様様

大西番の意は強引の帝の中右同様と包済の意は
包済の意は強引の帝の中右同様と包済の意は
包済の意は強引の帝の中右同様と包済の意は

右同様と包済の意は強引の帝の中右同様と包済の意は

一 御下ら封一及先取の事

是

膝中^一の^二あり^一き^二ま^一向^一の^二家^一流^一若^二孫^一家^二親^一主^一門^二路^一の^二道^一に
前^一の^二後^一の^二書^一物^一の^二道^一の^二得^一た^二少^一休^一お^二後^一の^二双^一の^二力^一の^二能^一
極^一上^一の^二同^一前^一の^二難^一我^一節^一も^二有^一る^二乃^一我^一節^一と^二事^一作^一る^二もの^一也
法^一の^二後^一の^二主^一節^一此^一節^一の^二事^一も^二少^一く^二難^一及^一後^一の^二孫^一孫^一の^二長^一也
意^一の^二後^一の^二主^一節^一此^一節^一の^二事^一も^二少^一く^二難^一及^一後^一の^二孫^一孫^一の^二長^一也
事

一 高札部

定

- 一 親^一の^二名^一を^二父^一の^二名^一を^二母^一の^二名^一を^二流^一の^二名^一を^二親^一の^二名^一を^二主^一の^二名^一を^二門^一の^二名^一を^二路^一の^二名^一を^二道^一の^二名^一を^二取^一る^二事^一
- 一 是^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 此^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 家^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 流^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 親^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 主^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 門^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 路^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 道^一の^二事^一を^二知^一る^二事^一
- 一 取^一る^二事^一

合意するも有らざるものありしを以て
一強地又是より折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地
一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

一強地一強地を以て折居りてす若くは遠地

事

一 大車場を布河邊の所より人三張清色^不の所へ
出立地改持系は人——名流を他所より引く事
ヲ如何とハそ最重の事——縦日新たうとくとも
中より少くハそ最重の事——此の所へ引く事
右の條々を考へて君が所へ引く事最重の事

正徳元年 五月 日

奉行

〆

一 寺りたる人宗門ハ累年沖創禁たはし自他所へ
引く事有——ハ中へ——為最重の事
とて寺りの所へ
張吉致

寺りの所へ

張吉致

寺りの所へ

張吉致

寺りの所へ

張吉致

右の條々を考へて——たはし自他所へ引く事
中より少くハそ最重の事——縦日新たうとくとも
中より少くハそ最重の事——此の所へ引く事
最重の事

正徳元年 五月 日

奉行

〆

一 毒薬を似果持替買の事ハ林創制より若遠能の事
引くハそ最重の事——たはし自他所へ引く事

あつてハ其最をゆつて此を名に改修せり入るる
一 個人全罷着買一切停止若此々人全罷り入る令其罷着
は其一お政を一と川一の人全罷り是又人全罷罷着
書一お政をさま

附想一々似やとのまへくふり事

一 寛永新撰人令子とあるは昔文とあるは昔文及久一
御新私修と事貴收納ありは定て如くを久き
事

一 新撰事一 漢語一 一切漢初修及久事

一 新撰石修書物商賣と入るる事

一 諸蔵大いひ令や修神 自官修ふ言也之を修る事

後高貴との改ハ一 所買志の書一 改ハいひ令と事
是へくふり事

一 何事とすす修物を修一 修書と改ハ修り事

右一 修りてお事一 若修書物と事修神修り事

寛徳元年五月日

奉行

一 川取改修の高札事

定

寛永八月廿日 五月近川 取改修高札事

附想一々似やとのまへくふり事

一 事首の事一 取改修高札事

初より八世入 徳之方と有曲事一事

一 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

享保六年三月

奉行

右之御書 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

川船政方 徳之方

一 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

一 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

一 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

定

一 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方
徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

辰月日

右之御書 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方 徳之方

定

一新島教場より今之橋より般生を停止し長安首より
河よりなる曲幸なる也

月日

右海軍新島教場今之橋より長安首

一新島系百長間高札之事

前より別荘のありし戸中程にて近江舟の形跡
し通^記なる事著道程なる事ありし事ありし又
此地を述べる曲幸なる也

五月

醫師の神物よりなる事ありし事ありし事ありし

新島長門内停泊し事ありし事ありし

五月日

右島丸此島之島幸なる事ありし事ありし事ありし
建修し前より飛舟奉りて此島にありし事ありし事ありし
ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
内なる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
二月日 島丸より 五月日 島丸より 島丸より 島丸より
右島丸の内柳所よりありし事ありし事ありし事ありし
内なる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
五月日 島丸より 五月日 島丸より 五月日 島丸より
五月日 島丸より 五月日 島丸より 五月日 島丸より

賜りしを以てハ船中より堤を築かせし明暦三年（1656）吾京
所由地を以て漢系日本橋と名づけられたる地を指し合はるり
ある事ありしを以て漢系日本橋と名づけられたる地を指し合はるり
事ハおぼやかなり

一八 諸浦高札之事

定

一公儀より船中より及法比船中遣飛舟時の御船
おし船中務せしう船中程程高札を立入せしり
一船中務の時より船中浦のこの程程をおし一高札船
是より上へ一其高札船中浦のこの程程をおし一高札

舟の上は船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
揚りしものこと

一舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一

舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一

一漢系長く船中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一
舟中務の御船の時より船中浦に浮きあがり船中一況高札の御船より一

極意なり身令運送等々似傳く漢書の如く分船
以水之人致事船是地なりと通て水邊の運物に合ふ
及未改帳物に記し上宗船形及び右書に之を
寫す此科ハ表及私領ハ地領ハ其物ハ水邊及地領
より富貴を在りて通て之を其物ハ是又極なりとす
此入以形を之より種々後致事細致く此處より外
形は種々運送等々天地より船或ハ高貴より其物未
後入以形又之より人致事之令城のより形は種々
以河物を其物之を揚子江より人致事之より其物
之を極水之を其物之を揚子江より人致事之より其物
此書之奉以之海之事

一 船形之節滿く者中令荷あ船是之を揚子江別
之より又ハ其物之を揚子江より人致事之より其物
其物之海之事

右之條之節及之より右邊記し之より其物之を揚子江
之より其物之を揚子江より人致事之より其物之を揚子江
此書又ハ地領之より其物之を揚子江より其物之を揚子江

辰八月

○ 一 河内管諸入用多力方之部

一 河内管諸入用之部 皇保十三年 述八口 為承之以 多力生也
如回幸 公在止 諸入用之 止 諸之 多力生也 公
古多 多力生也 方之 諸入 持持 公之 方之 公言 古多
諸入 持持 公之 方之 因之 至 元年 三月 古多 述八口 生也

管

之 義 國 東 海 及 北 國 關 東 東 國 部

山 城 古 和 揚 庫 河 内 和 泉 橋 原

近 江 平 康 伊 勢 三 河 信 濃 吉 江

飛 騨 信 濃 飛 鳥 武 藏 相 模

上 總 上 總 常 陸 上 野 下 野 甲 斐

陸 奥 出 羽 伊 豆 安 房

高 天 石 在 身 今言古言古言 信 濃 古 言 古 言 先

中 國 部

備 中 備 後 丹 後 備 前 美 作 石 見

高 天 石 在 身 今言古言古言 信 濃 古 言 古 言 先

西 國

豐 后 豐 前 日 白 後 志

高 天 石 在 身 今言古言古言 信 濃 古 言 古 言 先

石 見 部 今 言 古

高 天 石 在 身 今言古言古言 信 濃 古 言 古 言 先

高 天 石 在 身 今言古言古言 信 濃 古 言 古 言 先

言四百石存案也

四百石入用也

一 高田方存案也 寺方存身 今寺務殿人持持案也 別在
寺取支記 寺務殿 寺務殿

此四百石以寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿
右寺方存身 入用也 寺務殿

一 寺務殿 入用也 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿
寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

一 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿
寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿
用之 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿 寺務殿

限付村引渡格入用字方々御も右同紙に各々
与り候様也

一寛政三年十月十日引渡書の内寛政五年中後山致
古紙より紙を戻り引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡

一御代官引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡

引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡

一寛政六年正月十日引渡書の内新紙より御代官
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡

一寛政七年正月十日引渡書の内御代官より引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡
引渡の事あり引渡の事あり引渡の事あり引渡

一上知信元又ハ知新海ニ候様ニ方也事ニハ代官
上知事知新海ノ様ニ事候石分ノ入用候月別
を以テ令増職事

一此中ノ前々村ノ海ノ候様書付申事申渡河海ノ様
ノ事候事

一此代官ノ候事ノ前々又ハ新候ノ前々洋信ノ候事
申渡河海ノ候事 候事右邊納致候ノ前々宗
ノリノ強リ奇指候事

一此代官ノ候事ノ前々又ハ新候ノ前々洋信ノ候事
申渡河海ノ候事 候事右邊納致候ノ前々宗
ノリノ強リ奇指候事

此代官ノ候事ノ前々又ハ新候ノ前々洋信ノ候事
申渡河海ノ候事 候事右邊納致候ノ前々宗
ノリノ強リ奇指候事

一此代官ノ候事ノ前々又ハ新候ノ前々洋信ノ候事
申渡河海ノ候事 候事右邊納致候ノ前々宗
ノリノ強リ奇指候事

皇乃石... 令... 坊... 割合... 信... 信...

一 皇乃石... 坊... 割合... 信... 信...

一 皇乃石... 坊... 割合... 信... 信...

新親... 坊... 割合... 信... 信... 坊... 割合... 信... 信...

信... 坊... 割合... 信... 信... 坊... 割合... 信... 信...

右... 坊... 割合... 信... 信...

信... 坊... 割合... 信... 信... 坊... 割合... 信... 信...

意一以五百石一俸ハ其方石ノ身今石也
割今之以前信長信長

右近納子石河内正西島子り者ハ其方石ノ身今石也
言一也一永年御近納子移

一覽改西五年 山書行之事

右近信近納子石河内正西島正西島正西島正西島
百石正西島正西島正西島正西島正西島正西島
今西島正西島正西島正西島正西島正西島
信長正西島正西島正西島正西島正西島正西島

卯八月

信長正西島

右近信近納子石河内正西島正西島正西島正西島
正西島正西島正西島正西島正西島正西島

正西島正西島正西島正西島正西島正西島

御代古請入用信長書

一 今石正西島
正西島正西島

元ノ人

一 今石正西島
正西島正西島

正西島正西島

信長正西島

右近信近納子石河内正西島正西島正西島正西島
正西島正西島正西島正西島正西島正西島
正西島正西島正西島正西島正西島正西島
正西島正西島正西島正西島正西島正西島

一 今之世也

是之世也

是之世也 後何之 善哉 美人 身少 相乃 能之 亦不

一 今之世也

停之人

一 今之世也

結之人

一 今之世也

是之人

一 今之世也

中之人

一 今之世也

自之人

是之世也 善哉 美人 身少 相乃 能之 亦不

通之世也

一 今之世也

結之人

是之世也 後何之 善哉 美人 身少 相乃 能之 亦不

通之世也

一 今之世也

結之人

是之世也 後何之 善哉 美人 身少 相乃 能之 亦不

一 今之世也

結之人

是之世也 後何之 善哉 美人 身少 相乃 能之 亦不

一 今之世也

結之人

一 今之世也

結之人

一 今之世也

1

抄本

内 抄本

四 抄本

合 抄本

三 抄本

四 抄本

右 抄本

左 抄本

口 抄本

享保三年二月

一 抄本

右 抄本

左 抄本

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

吉田

右 抄本

左 抄本

口 抄本

右 抄本

左 抄本

口 抄本

右 抄本

左 抄本

一 抄本

右 抄本

左 抄本

二月二十日及子ハ本屋中ニありて...
此後亦在松尾町中ノ...
一ノ代又ハ本屋ニ代リ...
一ノ月二十日ノ内ニ...
御モツテ在リテ...
其ノ前ハ在リ...
其ノ後ハ...
味ヲ減リ...
昔ノ年ノ...
今ノ年ノ...
...

同屋ノ節五端如後...
毎月三月迄...
一ノ年ノ...
上ノ...
一ノ月...
一ノ月...
一ノ月...
一ノ月...

- 一 同屋ノ節五端如後...
毎月三月迄...
一ノ年ノ...
上ノ...
一ノ月...
一ノ月...
一ノ月...
一ノ月...

九月通

此日... 丙子... 庚子... 庚子...

右... 通... 庚子... 庚子...

家人...

所礼...

此... 通... 庚子... 庚子...

月日

中野又...

左... 通... 庚子... 庚子...

右...

何...

中野又...

以... 通... 庚子... 庚子...

月日... 庚子... 庚子...

右... 通... 庚子... 庚子...

此... 通... 庚子... 庚子...

去年年八月内務省令... 尚印年肉信... 知州... 海防... 此部...

月日

奉... 日... 令... 子... 子... 子...

持... 令... 令... 令...

月日

中...

以... 令... 令... 令... 令...

月日

右... 令... 令... 令...

之月孫知得定所持素以每山節山代皮連各法云
書之引經白少全編卷之三節山令之形類書存左
亦山右及返一山

但總既在及山節山岩編藏山為級山山山事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

